

# 新学習指導要領の方向性を踏まえた小中社会科研修の在り方と展開

— 「知識の構造図」の活用と小中高の連携・接続を意識した研修を中心として—

学校経営支援課 西村 広志 寒川 由美

## 要 旨

小中高担当の指導主事が、新学習指導要領（以下、新要領）の方向性を踏まえた社会科研修の在り方について協議し、「単元レベルの授業づくり」、「社会的な見方・考え方」、「指導と評価の一体化」を研修の重点項目とし、それらを具現化するための取組として「知識の構造図<sup>※</sup>」の活用と小中高連携・接続を意識させる研修を行った。そして、受講者アンケートの結果からは、研修の有効性を検証することができた。

キーワード：単元レベルの授業づくり，社会的な見方・考え方，指導と評価の一体化，知識の構造図，小中高の連携・接続

## I はじめに

平成30年3月に高等学校の新要領が告示され、どの校種においても新要領に沿った授業づくり・学校づくりが進められようとしている。そのような中、各教科等の研修においては、新要領の方向性を踏まえ、その趣旨を生かしたより良い実践につながる効果的な研修の実施が求められている。

また、今年度、本県の小中社会科はそれぞれ四国・全国規模の教育研究大会を開催し、新要領実施を視野に入れた授業づくりを提案した。その成果の1つとして小中ともに示された「知識の構造図」を研修に活用することで、受講者が新要領の考え方を理解し、小中連携・接続の具体的なイメージをもって実践することができるのではないかと考えた。

## II 研究仮説

小中社会科研修において「知識の構造図」を活用し、小中高の連携・接続を意識して実施することにより、受講者の新要領に対する理解が深まり、社会科の授業づくりに生かすことができるであろう。

## III 研究の実際

### 1 研修の重点項目

小中高担当の指導主事2名で、新要領の方向性を踏まえた研修の在り方について話し合い（写真1）、次に述べる3点を研修の重点項目とすることとした。以下、それぞれの項目について説明する。

#### （1）資質・能力の明確化と単元レベルの授業づくり

新要領では、「子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成すること」を目指し、「資質・能力」



写真1 指導主事の話し合い

を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理し、資質・能力ベースの授業づくりを求めている。そして、資質・能力ベースの授業づくりにおいては、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を進め、学習の質を一層高めることの必要性を説いている。さらに、授業改善を進めるために、「1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で実現を図る」ことを指導上の配慮事項として示している。このように、資質・能力ベースの授業づくりにおいては、単元レベルでの授業設計が重要な要素となっている。

## (2) 深い学びを成立させる「社会的な見方・考え方」

深い学びの鍵としての「見方・考え方」は、「その教科等ならではの物事を捉える視点や考え方」であり、社会科においては、「社会的な見方・考え方」となる。「社会的な見方・考え方」は、「社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする際の『視点や方法』」を指している。例えば、小学校社会科では、考えられる視点の1つに「位置や空間的な広がり（地理的な視点）」が挙げられており、その視点を生かし「どのように広がっているのだろうか?」、「なぜこの場所に集まっているのだろうか?」など問い、「いくつかの組立工場を中心に部品工場が集まり、工業が盛んな地域を形成している」、「駅の周囲は交通の結節点などで人が多いため商業施設が集まっている」などの工業地域の特色や商業施設の立地条件などの、社会科が目標とする概念的知識を獲得できるようになっている<sup>\*2</sup>。このように、「社会的な見方・考え方」は深い学びを成立させる要件となっている。

## (3) 指導と評価の一体化

指導と評価の一体化は、これまでの学習指導要領においても取り組まれてきた。新要領では、先述の(1)や(2)と関わらせて次のように述べられている。(1)については、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫」し、「論述やレポート作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等」の「多面的・多角的な評価」を行うこと、(2)については、観点別学習状況の評価である「知識・技能」の知識を「個別の事実的な知識のみでなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものが含まれている点に留意する」ことが挙げられている。以上のような評価を学習・指導方法の改善との一貫性をもった形で進め、「資質・能力の育成」につなげていくこととなっている。

## 2 研修における具体的取組

1で述べた3つの重点項目を基に、小中高担当の指導主事がこれまでの研修を振り返るとともに、今後の研修における具体的取組の方法について話し合った(写真2)。話し合いにより3つの具体的取組を行うこととなった。1つ目は知識の構造図の活用、2つ目は受講者用アンケートの工夫、3つ目は校種間の連携・接続である。以下それぞれについて説明する。

### (1) 知識の構造図の活用

小中学校の研修では、平成29年度より知識の構造図(図1・2)を活用している。理由は、知識の構造図の活用が新要領の方向性を具現化するのに適切であると考えたからである。知識の構造図は学習する知識を

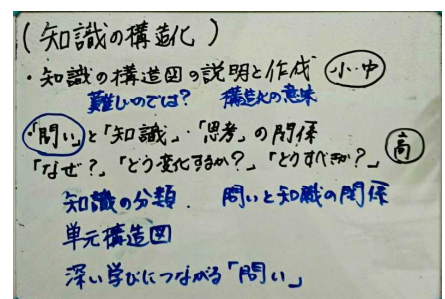


写真2 知識の構造図についての話し合いの結果の一部

単元レベルで整理したものであり、構造図を作成することで「単元など内容や時間のまとまりを見通すこと」ができる。中学校社会科の構造図（図1）では生徒が学ぶ学習内容を、記述的知識・説明的知識・概念的知識・価値的知識に分類し、単元の学習内容を構造化して整理している。これらの知識については、ここに挙げた順に知識の質が高まっていくこととなっているが、一般的に社会科の授業においては概念的知識の獲得と活用を目指すこととなっている。図1のⅠ～Ⅱ，①～③，a～c等は知識の関連性を表すものであり、授業者は知識の分類の仕方（どういった内容が概念的知識か？）や知識相互の関連の仕方（図1を例にすると、説明的知

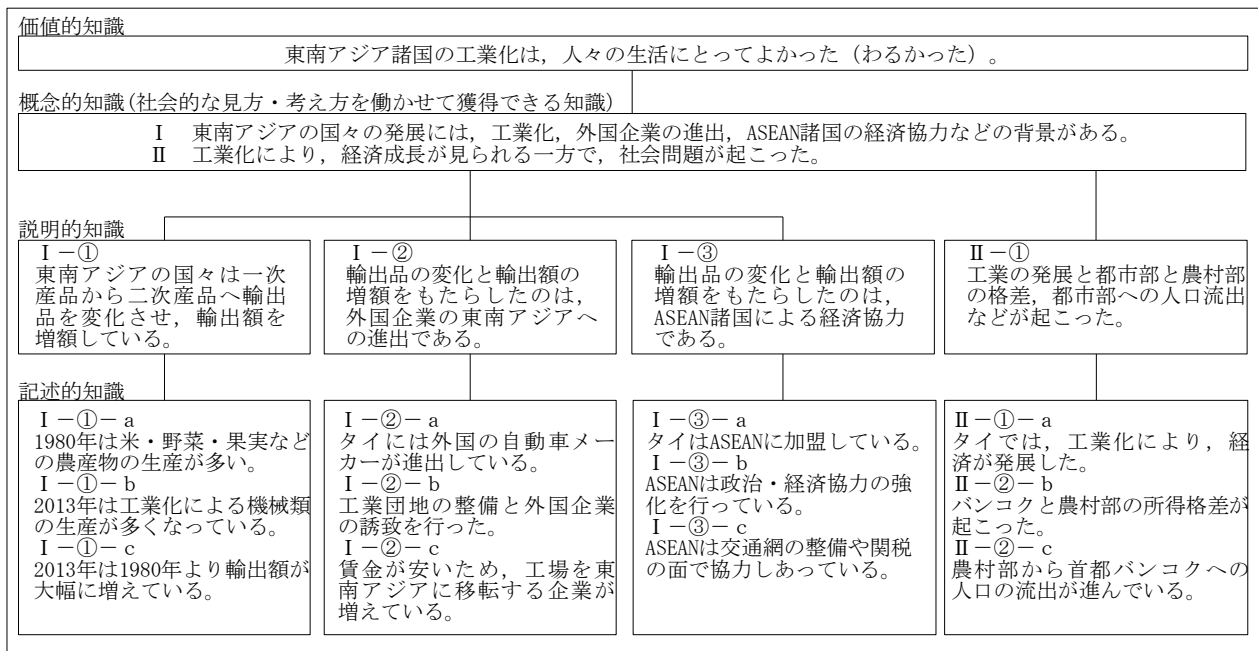


図1 研修で使用している知識の構造図（中学校用）筆者作成

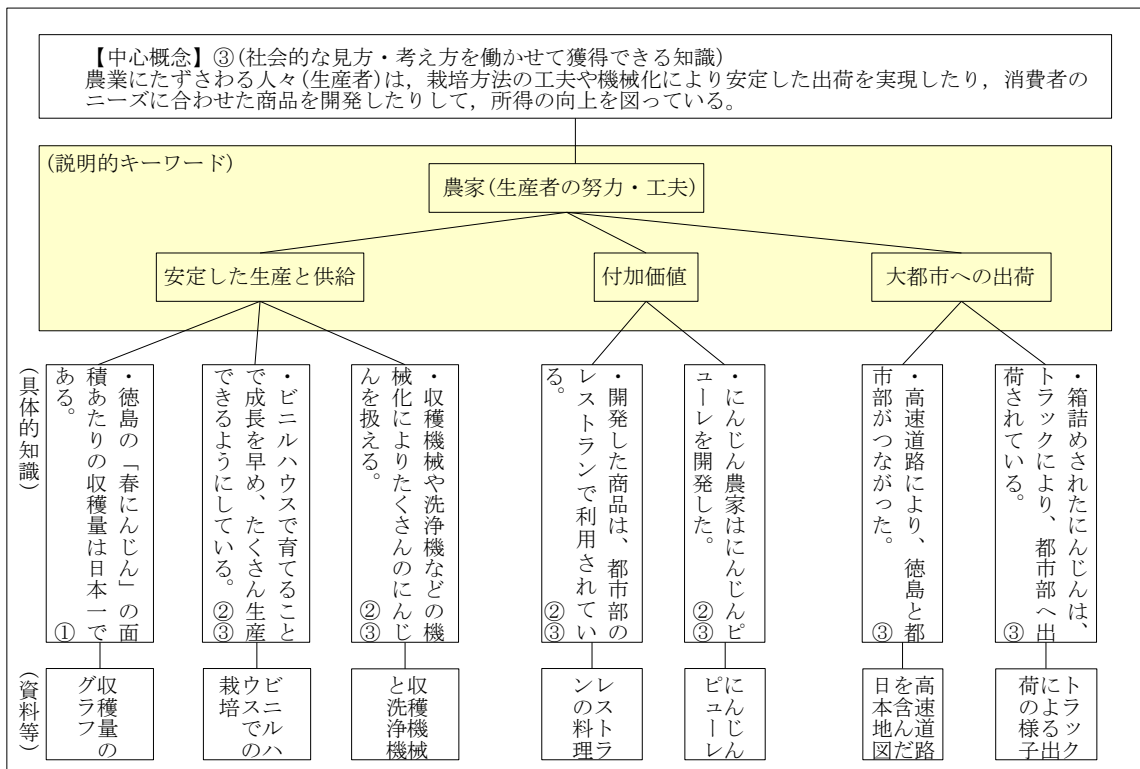


図2 研修で使用している知識の構造図（小学校用）筆者作成

識 I - ①の知識を理解させるには、どのような記述的知識が必要か？記述的知識 I - ① - a ・ b ・ c の3つで妥当か？）などを考え、構造図を作成する。

小学校の構造図（図2）では中心概念・説明的キーワード・具体的知識と分類する。この順に知識の質が高く、中心概念の獲得と活用を目指している。なお、図2では、①～③は指導する順序を表している。

小中学校で構造図の形式は異なっているが、目標ともいえる「概念的知識（中心概念）」は「社会的な見方・考え方」を働かせて獲得されるものである。構造図は、「概念的知識（中心概念）」を獲得させる学習過程を表しており、記述的知識（具体的知識）をつなげて説明的知識（説明的キーワード）を、説明的知識（説明的キーワード）をつなげて概念的知識（中心概念）を獲得するという知識のつながりや指導の手順を明確にすることに役立つものとなっている。

また、構造図に示された知識が獲得されているかどうかを検討することは、授業を評価することでもあり、獲得されていないという評価になれば、知識が獲得できるように授業改善を行う。このように知識の構造図は指導と評価の一体化にも役立つものとなっている。

## (2) 受講者用アンケートの工夫

受講者が知識の構造図の意義と、1で示した3つの重点項目について確認できるよう工夫したアンケートを作成した（資料1・2）。中学校用の資料1はアンケートの基本形であり、Q1では知識の構造図、Q2では単元レベルの授業づくり、Q3では指導と評価の一体化のそれぞれの意義について回答できるようになっている。短い時間で研修内容に沿った文章にできるように、語句指定で回答できるようにした。例えば、知識の構造図については、「単元」、「概念的知識」、「指導の手順」、「評価」という語句を用いることによって、知識の構造図が単元レベルで構成されること、概念的知識の獲得を目標としていること、整理された知識が指導の手順を表しているということ、知識の構造図がそのまま評価にも活用できることなどを、書くことができるようにした。また、Q4ではQ1からQ3を踏まえての社会科授業づくりに関する現在の課題について回答できるようにした。

社会科研修についてのアンケート(フレッシュ研修1)・中学校用 学校名 ( ) 学校 氏名 ( ) <中略>
Q1 社会科の授業づくりにおいて知識の構造図はどのような意義を持ちますか？「単元」、「概念的知識」、「指導の手順」、「評価」の語句を用いて、書いてください。 <input type="text"/>
Q2 社会科の授業づくりにおいて「単元など内容や時間のまとまりを見通すこと」は、どのような意義を持ちますか？「単元」、「資質・能力」の語句を用いて、書いてください。 <input type="text"/>
Q3 社会科の授業づくりにおいて「指導と評価の一体化」はどのような意義を持ちますか？「資質・能力」、「獲得させたい知識」、「授業改善」の語句を用いて、書いてください。 <input type="text"/>
Q4 社会科の授業づくりにおいて、自分の課題は何ですか？Q1～Q3に関わらせて、書いてください。 <input type="text"/>

資料1 研修で使用したアンケート（中学校用）

社会科研修についてのアンケート(フレッシュ研修1)・小学校用 学校名 ( ) 学校 氏名 ( ) <中略>
Q1 社会科の授業にはどのようなイメージがありますか？自由に書いてください。 <input type="text"/>
Q2 模擬授業で私が大切にすることはどのようなことでしょうか？「学ばせたい知識」、「資料」、「発問」という語句を使って書いてください。 <input type="text"/>
Q3 社会科の授業をつくる時、「知識の構造図」にはどのような意義があると考えますか？「学ばせたい知識」、「資料」、「指導の手順」、「評価」の語句を使って、書いてください。 <input type="text"/>
Q4 今日の社会科の授業づくりについての研修を、どのように生かしていきますか？ <input type="text"/>

資料2 研修で使用したアンケート（小学校用）

小学校用の資料2では、研修において指導主事が模擬授業を行い、その授業を知識の構造図を使って説明することにより、活用の意義について触れられるようにしたため、アンケートの問い方を変更している。「Q3 社会科の授業をつくる時、『知識の構造図』にはどのような意義があると考えますか？『学ばせたい知識』、『資料』、『指導の手順』、『評価』の語句を使って、書いてください。」という問いを設定することで、受講者が知識の構造図の有用性を表現し確認できるようにした。

以上のようなアンケートにより、受講者の研修内容の理解度を把握し、課題を見いだすことで、より指導者の意図に沿った研修となるよう改善することができる他、アンケートの記入により受講者が研修を振り返ることで研修内容の理解を深め、その差が大きくなるようにする効果も期待できる。

### (3) 校種間の連携・接続

新要領には、「小学校学習指導要領を踏まえ、小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるように工夫すること」や、「高等学校学習指導要領を踏まえ、高等学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるように工夫すること」とあるように、小中高の円滑な連携・接続の重要性が示されている。そこで、研修においても連携・接続を意識できる内容が設定される必要があると考え、教職10年目対象のミドルリーダー研修Ⅰ（中堅教諭等資質向上研修）のマッチング研修を活用することとした。もともと、受講する人数の関係でミドルリーダー研修Ⅰの模擬授業研修におけるグループの構成メンバーには小学校と中学校の異校種の教員が混在することがあった。小中に分かれて少人数で行うよりも効率的かつ意義のある研修になるのではないかという意見があったためである。今年度は、ミドルリーダー研修Ⅰにマッチング研修という新たなシステムが導入され、教職2年目対象のフレッシュ研修Ⅱの受講者が児童・生徒役として参加することになり、いくつかの教科で異校種のグループによる模擬授業が実施されるようになった。この研修では小中の教員が社会科授業という同じ前提の中で、より良い授業について校種を越えて模索することができ、互いの校種の授業がどのように進められているかを見ることにより、教科書や指導内容、指導方法の共通点や差異に気づき、9年間の社会科の学びの姿が具体的にイメージできると考えられる。

さらに受講者だけでなく、異校種の指導主事の連携による研修も実施することとした。これについては、教職1年目対象のフレッシュ研修Ⅰの模擬授業の研修（中学校）の一部に高等学校の指導主事が参加することとした。異なる校種の指導主事からの指導・助言により、受講者に新たな視点からの気づき生まれ、校種間の連携・接続への意識の高まりが期待できる。

## 3 研修の実際とアンケート結果

### (1) フレッシュ研修Ⅰ

フレッシュ研修Ⅰ（中学校）では、受講者が知識の構造図を作成し、それに基づいて模擬授業を行った。知識の構造図の考え方<sup>\*)</sup>について学んだ経験の有無の違いはあるが、どの受講者も作成は初めてである。完成度に差はあるが、どの受講者も努力して取り組んだ。特に、図3を作成した受講者は、単元「中国にならった国家づくり」で習得できる概念的知識を政治・経済・外交の観点から整理し、単元の中で本時は政治、次時は経済の学習という指導の手順がイメージできるという意見があった。また、「記述的知識、説明的知識を押さえたのち、概念的



概念的知識(社会的な見方・考え方を働かせて獲得できる知識)		
I (政治) 天皇中心の中央集権体制を確立させることができた。 II (経済) 社会の基盤となっている農民に対する負担が大きく、公地公民制が崩壊した。 III (外交) 遣唐使を通じた大陸との交流によって、国際色豊かな文化が花開いた。		
説明的知識		
I-①-1 大宝律令に基づく律令や班田収受法などの政策により、政治の仕組みを確立した。 I-①-2 都から地方へ役人が派遣され、中央の支配が地方の人々にも直接及ぶこととなった。	II-① 様々な立場の人々が生活を送っているが、農民に対する負担が大きく、身分や立場によっては生活の水準や負担に差が生じ、重い負担から逃れるため、戸籍の性別や年齢を偽ることや、居住地から逃亡するなどの社会問題が発生した。	III-① 聖武天皇は、仏教の力で国を守り、僧達の協力を得て、国を統治した。 III-② 唐や朝鮮半島の品だけでなく、インドや西アジアの品などもシルクロードを通ってもたらされた。
記述的知識		
I-①-a 大化の改新が行われた。 I-①-b 白村江の戦いで日本は敗退し、中国や朝鮮を警戒するようになった。 I-①-c 九州の防衛のために太宰府を設けた。 I-①-d 山城、水城をつくった。 I-①-e 大宝律令を作成した。 I-①-f 戸籍を作成した。 I-①-g 律令を日本の社会に適合させるために新しい法を出した。 I-②-a 都を平城京に移した。 I-②-b 中央に貴族、地方に農民を住ませた。	II-①-a 未開の地が多く、農業の生産力が低かった。 II-①-b 公地公民制のもと班田収受法を実施した。 II-①-c 口分田が与えられた農民に税がかけられた。 II-①-d 貴族は調で得た特産品を使い、豪華な食事をした。 II-①-e 農民は、質素な食事をしていた。 II-①-f 唐の税制度に倣い、租庸調などの農民の負担が定められた。 II-①-g 人口が増え、自然災害もあり、口分田が不足した。 II-①-h 墾田永年私財法を定めた。 II-①-i 寺院建設の作業は、新たな農民の負担となった。 II-①-j 貴族や寺社が私有地を独占するようになり、荘園が誕生した。	III-①-a 中国では、唐が大帝国を築き、広大な領土を支配した。 III-①-b 朝鮮半島を新羅が統一した。 III-①-c 壬申の乱後、唐にならった国づくりを目指し、遣唐使を派遣した。 III-①-d 仏教が広まった。 III-①-e 東大寺を建設した。 III-①-f 「古事記」、「日本書紀」、「風土記」、「万葉集」がつけられた。 III-②-a 平城京を中心に、天皇や貴族による華やかな文化が栄えた。

図3 フレッシュ研修Iの受講者が作成した知識の構造図(筆者が一部修正)

知識(時代の特色)をしっかりと押さえることができるように意識した。」という意見から、知識の構造図の作成により、学習内容と指導の手順が明確になったことが影響したと考えられ、その有用性を確認することができた。

受講者のアンケートの記述(表1)から、知識の構造図の意義については「概念的知識の習得や資質・能力の育成を目指した単元づくり」と「指導の手順や評価の明確化」について述べているものが多く見られた。単元レベルの授業の意義については、「資質・能力を育成するには、単元レベルの授業づくりが必要である」ことが、指導と評価の一体化の意義については、「資質・能力や知識がきちんと身に付いているかを確認するということ」や、「資質・能力や知識を身に付けるための授業改善」、「資質・能力と獲得させたい知識との関係性が見えてくる」について述べているものが多く見られた。

高等学校の指導主事を交えての模擬授業研修(写真3)では、各授業者に対する、高等学校の視点からの個別の助言を行った。例えば、豊富な資料をもとに本州四国連絡橋の整備によってもたらされたメリットとデメリットについて考える模擬授業を行った受講者に対しては、資料のどの部分に注目すれば、生徒が読み取らせたい内容に気付くことができるかを指摘し、中央集権国家の成立の背景について理解させる模擬授業を行った受講者に対しては、



写真3 高等学校の指導主事を交えての研修の様子

しては、資料のどの部分に注目すれば、生徒が読み取らせたい内容に気付くことができるかを指摘し、中央集権国家の成立の背景について理解させる模擬授業を行った受講者に対しては、

中央集権国家の成立の背景の捉え方について助言した。担当の指導主事だけでは説明しきれない授業に関する大切な視点を助言してもらえるので、担当の指導主事にとっても有意義な研修になった。

フレッシュ研修Ⅰ（小学校）では、各教科の研修が1時間の講義のみであり、受講者は知識の構造図の作成はしなかったが、指導主事の模擬授業をもとに知識の構造図について学んだ。

受講者のアンケート記述（表2）から、知識の構造図の意義については「目標、評価の観点としての中心概念、概念的知識、社会的な見方・考え方」を、単元レベルの授業の意義については「学ばせたい知識と資質・能力の明確化と単元を見通すことの効果」、「単元を見通して評価を行うことの大切さ」を、指導と評価の一体化の意義については、「知識の構造図を活用した評価が可能であること」についてそれぞれ述べているものが多く見られた。

表1 フレッシュ研修Ⅰ（中）受講者のアンケートの記述<sup>41</sup>

（知識の構造図と社会的な見方・考え方）

観点	アンケートの回答内容
◎概念的知識の習得や資質・能力の育成を目指した単元づくり	○単元全体を通して、概念的知識を獲得させるために、知識の構造図は大切であると感じた。また知識には質があることから、記述的知識、説明的知識、概念的知識、価値的知識と質が高まっていくため、指導の手順であったり、単元構成が大切であることが分かった。また、評価の規準を明確にし、目標・指導・評価を一体化していくことも重要であると分かった。
◎指導の手順や評価の明確化	○単元で何をつかませたいのか、自分が何を教えていくべきかを見失わないようにできるもの。まずは、概念的知識をどうつかむか、それに向けての指導の手順が明確になり、評価の規準も明確になる。 ○単元の構造を理解する上で、概念的知識までの獲得を踏まえ、価値的知識を獲得するのに非常に有効である。また、指導の手順や評価を考える際もブレが少なく、建設的に授業を進めていく上で有用である。 ○社会科では、単元ごとに獲得させる目標を設定する必要がある。その際に、概念的知識を目標として、知識の構造図をつくり明確にする。記述的知識・説明的知識をまず習得させることになるため、指導の手順の意味をもつ。また、獲得すべき知識が明確なため、評価を踏まえた上で指導をすることができる。 ○概念的知識を整理し、関連付けさせて単元の見通しをもたせる。そこから効果的にねらいにそった指導の手順を構築させていくことで、目標に向けて単元を組み立てることができる。生徒がどのような資質・能力を身に付けられているか、評価を行う際にも知識の構造図と照らし合わせて行うことができる。 ○単元で捉えることで、獲得させたい概念的知識が明確になるとともに指導の手順も見えてくる。また、構造図が評価の規準にもなる。 ○単元全体をつかみ、概念的知識と指導の手順を明らかにするため。また、評価のとき参考にするため。 ○単元別につかませたい概念的知識や説明的知識を明らかにするため。また明らかにすると、逆算して指導の手順が見えてきて、評価も行いやすくなるのが知識の構造図の意義であると感じた。

（資質・能力の明確化と単元レベルの授業づくり）

観点	アンケートの回答内容
◎資質・能力を育成するには単元レベルの授業づくりが必要であるということ	○単元でとらえることで、物事を多面的・多角的な視点から考えさせることができる。学ばせたい「資質・能力」を構築するのに有効である。 ○単元において、どのような資質・能力を身に付けさせたいかが整理される。それによってどの順序で資料を提示するかなどが整理される。 ○教科書見開き2ページで、1時間の授業を行うことが可能な構成と教科書はなっているが、どのような知識を身に付けさせたいのか、どのような資質・能力を身に付けさせたいのか、ということを見ると、単元を再構築することが求められていることが分かった。 ○1つの単元を通して、獲得させるべき資質・能力を明らかにする必要がある。つまり、単元などのまとまりを見通すことで、明確な目標設定が可能となる。 ○単元全体を通して、生徒に身に付けさせたい資質・能力がどのような場面で、どのような資料・事象を用いて育成することができるのかを明確にすることができる。また、単元を貫く課題や問いがぶれることなく授業を展開していくことができる。 ○限られた時間の中で資質・能力を子供たちに身に付けさせるためには、単元として捉え見直しをもつことが必要である。 ○単元を通しておさえておくべき内容をもとに、ねらいとする資質・能力を育成させることが必要である。 ○その単元において、どのような資質・能力を身に付けさせるのかを把握し、その資質・能力が次の単元や前の単元とどのようなつながっているのかきちんと理解することに意義がある。

（指導と評価の一体化）

観点	アンケートの回答内容
◎資質・能力や知識がきちんと身に付いているかを確認するということ	○指導をする上で、評価を踏まえておかなければならないが、そうであれば授業の構想段階で獲得させたい知識や資質・能力を明らかにしておくべきである。指導と目標と評価をセットで考えておくことで、生徒の学びを観察しながら授業改善をしていくことができる。
◎資質・能力や知識を身に付けさせるための授業改善	○子供たちに身に付けさせたい資質・能力、ねらいとする知識を獲得させたり、それらが獲得されているのかどうか確認するために指導と同時に評価も大切だと思った。その知識や資質・能力の質を高めさせていくためにも、授業改善につとめ、指導と評価の一体化をつねに意識していくことが大切であると分かった。 ○「生徒にどのような資質・能力が身に付いたのか」と獲得させたい知識との間にずれがないかが

◎資質・能力と獲得させたい知識との関係性	<p>分かりやすい。また振り返った時、どこに授業改善のポイントがあったのかを明確にしやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の成長に必要な資質・能力を獲得させたい知識を基にして、根拠付けをしながらとらえることができ、授業改善をする点も表面化されていく。</li> <li>○生徒に獲得させたい知識や資質・能力が実際にどの程度達成されているのかということ、授業ごと、単元ごとで確認し振り返ることができる。そこで得られた情報・反省点・改善点などを以後の授業改善に活用することができる。</li> <li>○生徒に身に付けさせたい資質・能力や獲得させたい知識をもとに指導を行う。そしてワークシートやノート等から評価規準を達成しているかどうか指導者が確認することにより、授業改善へのヒントを得ることができる。</li> <li>○評価によってどのような資質・能力、どのような質の知識がそれぞれ身に付いたかを、明らかにすることができ、授業改善の必要性を把握することができる。</li> <li>○指導があれば必ず評価があり、身に付けさせたい資質・能力や獲得させたい知識の達成度を明らかにし、授業改善につなげることができるという意義がある。</li> </ul>
----------------------	--

表2 フレッシュ研修Ⅰ(小) 受講者のアンケートの記述<sup>※</sup>  
(知識の構造図と社会的な見方・考え方)

観点	アンケートの回答内容
◎目標、評価の観点としての中心概念・概念的知識・社会的な見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学ばせたい知識と資料を結び付け、思考をもって知識を得るための手段の1つであると考え。また、この構造図があることで、実際の授業での指導の手順が整理しやすく、同時に学ばせたい知識を得させることができたとどうかを評価する手段ともなる。(中心概念に迫れたかどうか)</li> <li>○知識の構造図を使用すると、指導者が学ばせたい概念的知識を意識して授業をつくるので、具体的知識を引き出すための資料が考えやすい。また、指導の手順や評価を整理しやすいというメリットもある。</li> <li>○学ばせたい知識をより細分化することができ、授業をする際に、資料作成や指導の手順、発問、板書に生かすことができ、児童にとって分かりやすい授業ができるようになる。また評価においても社会的な見方・考え方を見ることができるようになる。</li> </ul>

(資質・能力の明確化と単元レベルの授業づくり)

観点	アンケートの回答内容
◎資質・能力や指導の手順の明確化	○学ばせたい知識が整理され、子どもの学力向上や身に付けるべき力の明確化につながる。そのため知識習得のための資料や指導の手順も明らかにできる。さらに学ばせたい知識が明確なので評価も行いやすい。
◎単元を見通すことで学ばせたい知識・使いたい資料・指導の手順・評価の観点が明確になる。	○単元を通して知識の構造図を作成することで、学ばせたい知識や使いたい・使うべき資料がはっきり分かる。また、どのような順番で学ばせるべきかを考えることができ、意味のある指導ができる。どのポイントで評価するのか、何を理解できていたら良いのかも、あらかじめおさえることができる。
◎単元を見通して評価を行うことの大切さ	○学ばせたい知識と資料と発問をどのように関連付けるかを考えるために知識の構造図を利用し、指導の手順を考えることで授業づくりが円滑になる。また、評価は単元を通して行うので、知識の構造図で児童に付けたい力やなってほしい姿を明確にし、見直しをもつことが大切だと思った。

(指導と評価の一体化)

観点	アンケートの回答内容
◎知識の構造図を活用した評価が可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学ばせたい知識について、どのような資料を提示すればいいのか、どのような指導の手順を踏めば効果的なのかを視覚的にも分かりやすく、さらに評価の観点が明確であるため評価もしやすい。</li> <li>○知識の構造図は学ばせたい知識、教える内容を構造化、具現化したものであり、その知識をもとに資料を選ぶことが明確化されている。学習内容を構造化しているため評価にもつながりやすい。</li> <li>○学ばせたい知識(目標)を明確化することにより、資料の精選がしやすく指導の手順を考えやすくなる。また、ポイントを絞っているため評価をする際に知識の構造図に照らし合わせることができると思った。</li> </ul>

## (2) フレッシュ研修Ⅱとミドルリーダー研修Ⅰのマッチング研修

教職10年目の受講者が教職2年目の受講者を児童・生徒役として模擬授業を実施した。模擬授業を終えた後は、研究協議を行い、授業者への質疑・応答や、授業改善に関する意見交換を行った。質疑の中には、「小学校の教科書には、太文字がありません。どのように重要語句を教えているのか?」という、教科書とその活用方法に関する質問や、「専門的な内容を知ることができ、学習に興味を持つことできる。」などの学習内容と子供の学習意欲への喚起に関する感想があり、小中の授業の違いからお互いの校種の授業を把握することができるよい機会となった。意見交換の内容は、指導主事がホワイトボードに書いて、補足説明を行い、論点を整理した(写真4)。

アンケートには、「本日の研修で小中連携・接続についてどの程度意識できましたか?」の質問を加え、「小中連携・接続」に関する意見をフレッシュ研修Ⅱとミドルリーダー研修Ⅰのそれぞれの受講者についてまとめた(表3・表4)。

フレッシュ研修Ⅱの受講者は、「中学校へつなぐ授業づくり」、「小学校の学習を踏まえた授



業づくり」,「小中連携・接続の大切さ」という観点から意義を述べている。また,異校種(小学校)からの学びについて「板書・コミュニケーション・単元の意識」の観点から述べたり,「知識の構造図の違い」について述べたりしている(表3)。

ミドルリーダー研修Ⅰの受講者は,小中連携について「小中連携・接続の意義」,「中学校へつなぐ授業づくり」,「小中連携・接続の必要性」

などの観点から述べている(表4)。フレッシュ研修Ⅱとミドルリーダー研修Ⅰの受講者に共通するものとして「小学校の学習を踏まえた授業づくり」または,「中学校へつなぐ授業づくり」,「小中連携・

接続の必要性」などの観点から述べた意見が多くあり,小中連携・接続の意識を高めることができたと考えられる。

表3 マッチング研修・フレッシュ研修Ⅱの受講者(小○中●)のアンケートの記述\*6  
(小中連携・接続)

観点	アンケートの回答内容
◎中学校へつなぐ授業づくり	○中学校では,どのように授業を進めていくのかを知るよい機会となった。 ○中学校で何をどのように学ぶのかを考え,今後授業をしていかなければならないと思った。 ○中学校の授業や小学校に対する疑問を聞くことで,先を見据えて小学校で身に付けさせることについて考えられた。
◎小学校の学習を踏まえた授業づくり	●小学校で学習したことを生かすためにも,どのような取組をし,学習しているか,その一端を学ぶことができた。 ●小学校で行われている授業を知ることで,中学校の社会を効率的に教えることができるのではないかと考えた。 ●小学校で何を学んでいるのかを知っておくことは必要だと感じた。また,発達段階に応じた学習活動を展開しないといけないと感じた。小学校の授業を見せていただく機会がもっとあればいいなと思った。
◎小学校の先生から学んだこと・板書・コミュニケーション・単元の意識	●小学校の先生方の言葉かけや板書の方法がとても参考になった。また,何事ともども丁寧だったので,見習いたいと思った。 ●小学校での授業の行い方や生徒とのコミュニケーションなど,中学校で生かしたいと思った。 ●小学校の授業は単元としてのまとまりがあったのですごいと感じる。中学校ももっと意識して作らないといけないと思った。
◎小中連携・接続の必要性	○改めて小中連携は大切だと感じた。
◎小中の構造図の違い	●中学校の構造図と比べて小学校の構造図は分かりやすいものだった。

表4 マッチング研修・ミドルリーダー研修Ⅰの受講者(小○中●)のアンケートの記述\*6  
(小中連携・接続)

観点	アンケートの回答内容
◎小中連携・接続の意義	○小中それぞれの見方・考え方があり,そこから新しいアイデアが出てくるように思う。
◎中学校へつなぐ授業づくり	○中学校の先生に,教科書のことや授業について聞くことができたので,今後に生かしたい。 ○中学校の先生の話聞き,ここまでは小学校ですでしておくことを強く意識できた。中学校での学びにつながる意識をもち,実践に取り組みたい。
◎小中連携・接続の必要性	●小中連携を行っていた学校での勤務経験があり,少子化が進むことを考えると,連携が多くの小中で行われてほしい。 ○中学校の授業を受けて,自分たちが生徒の頃とは全く違うと感じた。また,中学校の教科書を見ることができて参考になったので,異校種間の交流は大切だと思った。 ○本日の研修を通じて今まで以上に小中連携の意識があると,視点が広がること,今後益々必要になってくるだろうということがわかった。



写真4 小中の受講者によるマッチング研修の様子

## IV 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

本研究の成果として、以下の2点が挙げられる。

- (1) 新要領の方向性を具現化している知識の構造図の活用と、受講者に理解してもらいたい内容を表現させるためのアンケートの工夫を行うことにより、新要領の方向性を踏まえた研修を実施することができた。
- (2) 小中学校の異校種の教員が、同じグループで協議できるマッチング研修を活用したことにより、小中連携・接続について意義を感じることができる研修を実施することができた。

### 2 課題

課題として、以下の3点が挙げられる。

- (1) 知識の構造図と新要領との関連性の明確化が不十分であった。特に、小学校の研修では、受講者が知識の構造図の基本的な考え方を理解し、有用性を実感できるよう研修を進めたので、新要領との関連性については、十分説明できなかつた。
- (2) 今回のアンケートは研修内容の効率的な理解を目指し、語句指定の記述とした。その結果、どの研修においても研修内容の理解は概ね達成できたが、新たな発見や疑問をもった受講者の意見を引き出したり、その意見に説明を加えたりすることはできていない。
- (3) 社会科授業づくりとしての小中の連携・接続について十分深めることができなかつた。授業で準備した知識の構造図やワークシート、実際の授業をもとに、社会科授業づくりをどのように連携・接続させていけばよいのか、という観点での話し合いが必要であった。

## V おわりに

本研究を通して総合教育センターにおける小中高連携の研究に関する意義を2つ見いだすことができた。1つ目は、異校種の指導主事が各教科等の考え方や研修内容・方法等に関する情報交換をセンター内で直接行い、連携することの重要性である。2つ目は、各教科等の研修を小中高の連携・接続の意識を高める機会とし、これを活用することの効果は大きいということである。このような連携・接続については学校現場で意識する機会は少なくハードルが高い。だからこそ、総合教育センターにおける小中高連携の研究は大きな意味をもつものと考ええる。新要領では、小中高の連携・接続が大きなテーマの1つとなっている。本研究をきっかけに、連携・接続の意識を現場の教員に広められたらと考えている。

- 
- \*1 知識の構造図については、現在は、徳島県小教研社会部会・徳島県中教研社会部会においてともに単元の構造図として活用されている。
  - \*2 教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループ「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージの例より。
  - \*3 知識の構造図の考え方については、小学校は第42回四国社会科教育研究大会徳島大会要項・紀要を、中学校は第51回全国中学校社会科教育研究大会(徳島大会)の基調提案を参照されたい。
  - \*4 フレッシュ研修Ⅰ(中)については、受講者8名のアンケート内容から抽出した。
  - \*5 フレッシュ研修Ⅰ(小)については、受講者88名のアンケート内容から抽出した。
  - \*6 マッチング研修については、小中連携・接続について関係する内容についてのみ抽出している。また、重複している内容については省略している。

### 参考文献

- ・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編及び社会編
- ・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編及び社会編